

地域文化に求められるもの

第33回・埼玉県文化振興会議に参加して

2月7日(土) 埼玉会館での県文化団体連合会主催の交流・協議に、当文団連より13名が出席しました。

私は初参加でしたが、大ホールでの事例発表、芸能部門の研究発表(実演)には興味がありました。

文学部の発表は、羽生市の詩人・宮澤章二の足跡を、田山花袋の『田舎教師』とあわせた紹介。実演では、民謡協会の津軽三味線、舞踊協会のバレエ、合唱、和太鼓の競演。特別参加の秩父屋台囃子は、舞台でも圧巻でした。

分科会では、美術、茶道等の教養文化、郷土文化各部の展示。市町村文化部では、合併後の運営や市民会館との共催の事例、今後の高齢化問題等の発言が関心を集めた。

上田知事の祝辞もあり、参加者も1000人程。埼玉の文化振興の熱意が感じられた一日でした。

(広報委員会 高沢正夫記)

平成21年度 定期総会のご案内
と き : 5月17日(日) 午前10時30分~
と ころ : レストラン ニックス



平成20年度定期総会

----- さやま・文化の息吹 -----

書道 芳竹会

時代の人々に受け入れられて育てられてきた詩歌などを題材に、文字の構図・墨色・曲線など、書家の人間性を通して芸術的に表現される書。一本の線がどの様に引かれ、余白がどの様に生み出されてゆくかは、筆法の技術を基本に、書く人の内面性が現れる。

逆に、線を引く練習、美しい構図を学んでゆくことによって、自分の内面が変革されてゆく。故に”書道”なのです。書道は<楽しさ>もあります。

芳竹会は、その書道の研究グループです。入会をお待ちしております。

芳竹会 代表 高戸 芳川